



## みずほ証券

### 会社概要

みずほ証券株式会社

<https://www.mizuho-sc.com/>

業種：証券

従業員数：  
7,592名

資本金：1,251億6,700万円

所在地：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア

事業内容：

みずほフィナンシャルグループ傘下の総合証券会社。業界トップの店舗ネットワークを誇り、高度な総合資産コンサルティングを提供。債券や株式の引受、M&A アドバイザリー、ストラクチャードファイナンスをはじめとした投資銀行分野でも常にトップクラスの実績を残している。また、グローバルなセールス&トレーディング体制、業界トップクラスのアナリスト、ストラテジスト、エコノミスト陣による充実したリサーチ体制を通じ、顧客の投資戦略に的確に応える運用商品、投資情報を提供している。

### 導入製品

導入時期：2017年10月

導入製品：

Tableau Creator ライセンス数：110

Tableau Explorer ライセンス数：15

Tableau Viewer ライセンス数：1082

主な利用環境：リスクレポートの作成、リスク管理に関する分析

導入に要した期間：約1年

## リスク管理に必要なデータ分析ツールをTableauへと移行開発のための外部ベンダーコストを抑制しリスク分析の高度化も実現

### Before 導入前の課題

以前は独自開発の Excel シートや Web サービスで分析を行っていたが、高精度なスライス&ダイスが難しく、開発のために外部ベンダーコストもかかっていた。

### After 導入後の効果

hyper ファイルを活用することで高精度なデータ抽出が可能になり、インタラクティブなダッシュボードによってスライス&ダイスもスピーディに行えるようになった。これによってリスク管理の高度化と、外部ベンダーコストの削減が可能になった。

### 導入の背景

『One MIZUHO』のスローガンのもと、銀行・信託・証券の一体運営を推進するみずほフィナンシャルグループの総合証券会社として、グループ全体の成長をけん引しているみずほ証券株式会社。その中で、市場リスクや信用リスクのような、あらゆるリスク管理を担っているのがリスク統括部です。

「リスク統括部の役割は、当社を取り巻くさまざまなリスクを適切に管理することですが、その業務はデータ分析と不可分な関係にあります」。このように語るのは、みずほ証券 リスク統括部で部長を務める齋藤 誠 氏です。「そのため以前からエンドユーザーコンピューティングの一環として、分析用のRDBの開発・管理を行ってきました」。

以前はRDBにデータを格納し、それを独自開発したExcelシートやWebサービスへと抽出することで、レポートを作成していたと齋藤氏。しかしこのようなやり方はいくつかの課題を抱えていたと振り返ります。

「Excelで作成したレポートはスタティックなものであり、レポート上の特定のデータを深掘りしたい場合にはその都度、RDBにSQLを発行する必要がありました。またWebサービスは外部ベンダーに開発を依頼しており、コストがかかることも問題でした」。

開発コストを抑制しながらより動的なレポートを作成するにはどうすればいいのか。この問いへの答えを見つけ出すため、2015～2016年にかけてセルフBIに関する調査を実施。その結果採用されたのがTableauでした。

### Tableau 導入・運用環境

Tableauの採用を決めたのは2017年上期。ここで社内申請を行い、2017年10月から活用を開始しています。まずは1年間の実証実験が行われ、Tableauが従来のExcelやWebサービスの代替になりうるかを検証。その結果を受け、リスク統括部全体への展開が行われました。

Tableauで分析されているデータは、ポジション情報やマーケット情報、リスク指標に関する情報など、リスク管理に必要なデータ全般です。これらのデータは複数のRDBで管理されており、Tableau Prep Conductorによってhyperファイルとして抽出、これをTableau Serverにパブリッシュしています。またダッシュボードはリスク統括部内の特定チームがTableau Desktopで作成し、Tableau Serverに展開しています。

ユーザー数は約1,000名。その多くはリスク統括部を含むリスク管理グループとフロント部署のメンバーです。主な用途はリスク管理のための定形レポートの作成ですが、スポット的なリスク分析でも活用されています。

「当初は従来のExcelやWebサービスの代替と見られ、一部のユーザーからは使い慣れたツールからの移行への反発もありました」と齋藤氏。これに対して小さな実績を積み重ね、ボトムアップ的にTableauへと切り替えていくことで、次第に好感されるようになったといいます。「やはり大容量データをインタラクティブに分析できることが、高評価につながったようです」。



## お客様プロフィール

お名前: 齋藤 誠 様

役職: 部長

部門名:  
リスク統括部

主な担当業務:  
リスク統括部の部長として、当社における金融リスク全般（市場リスク、信用リスク、流動性リスク、オペレーションリスクなど）を統括している。

## Tableauについての質問

### Q1. Tableau で感動したことは？

「最初に触れたときに印象的だったのは、チャートなどのビジュアルが美しいことです。しかもダッシュボードを簡単に作成でき、ドリルダウンも容易です。シンプルなダッシュボードでも、その裏側のデータの状況が把握しやすくなると感じました」

### Q2. Tableau 導入後の変化は？

「今では Tableau のダッシュボードによって、リスク管理レポートがいつでも見られます。また過去の情報を参照したり、特定の検索キーでデータをフィルタリングするといったことも、レポート上で簡単に行なえます。これによって自分の作業や議論を中断することなく、タイムリーにデータを確認して判断を下せるようになりました」

### Q3. Tableau でしたいことは？

「私自身はリスク分析をさらに高度化していきたいと考えています。リスク分析では多次元データを扱う必要がありますが、Tableau ならインタラクティブなダッシュボードで、スライス&ダイスをスピーディに行えます。このような特徴は、リスク分析では非常に強力な武器になります」

このような流れを加速するため2019年4月には、ExcelのレポートをTableauへと切り替えるためのチームも新設。Tableau を使える人材を増やすための勉強会も開催しています。これによってボトムアップから、トップダウンでの Tableau 化を推進。2019年10月頃にはリスク管理に関するほとんどのレポートが、Tableau に切り替わっています。

### Tableau 選定の理由

それではなぜセルフ BI として Tableau が選ばれたのでしょうか。齋藤氏は「大きな理由は BI ツールの中で最も使われている製品だから」と説明しますが、他にも以下の3つの理由を挙げています。

第1の理由は直感的に使い、専門的なスキルやトレーニングが不要なことです。慣れるまでの時間が短く、文字通り「セルフサービス型」でデータ分析できる点が評価されたのです。

第2はインタラクティブなダッシュボードが作成できること。レポート上の特定のグラフや数値を、その場でドリルダウンしていくことが可能です。これによってデータの背後を深掘りすることが容易になり、より高度な分析を行うことが容易になります。またダッシュボードの変更も簡単に行えるため、走りながら改善を進めていくといったことも容易です。

そして第3の理由が、ダッシュボードを Web ブラウザで閲覧できることです。「Excel レポートはファイルをメールで配信する必要がありましたが、Tableau はその必要がありません。レポート配信の手間が省ける上、常に最新のレポートを参照できます」（齋藤氏）。

### Tableau 導入効果

データ分析ツールを Tableau へと移行したことで、以下のようなメリットが得られています。

#### 開発コストの削減

レポート類の大部分を Tableau に切り替えたことで、レポート作成のための開発を外部ベンダーに依頼する必要がなくなりました。Tableau 以外の要因もありますが、外部ベンダーに費やすコストは Tableau 導入前に比べ、2~3割削減されています。今後も業務プロセスの見直しなどによって、これをさらに2~3割削減することが目指されています。

#### リスク分析の高度化

Excel のレポートはスタティックであり、スプレッドシートに貼り付けられるデータ量も限られていました。そのため RDB に精度の高いデータが存在していても、集計した上でレポート作成を行う必要があり、データのスライス&ダイスを高精度で行うことは困難でした。これに対して Tableau では、hyper ファイルを活用することで精度の高いデータ抽出を行うことができ、インタラクティブなダッシュボードを作成できます。これによって高精度なスライス&ダイスを効率よく行うことができ、リスク分析の高度化が可能になっています。

#### リスクレポートの改善

Tableau は新たなレポートの作成や、そのメンテナンスも容易です。そのためレポートの改善も進みやすくなっています。ユーザーが独自に作ったレポートの中には、グローバルなエクスポージャー（リスクの度合い）を世界地図にマッピングするといった、直感的に理解できるようビジュアルに工夫を凝らしたものもあります。

#### 今後の展開について

現在の Tableau 活用はリスク管理グループが中心になって進められていますが、他の部門での利用も広がっています。

「Tableau をリスク管理以外のデータ分析で活用しようという動きもすでに始まっています」と齋藤氏。その一例として、勤務管理データを Tableau で分析する、といった取り組みがあると語ります。

「マネージャーとしては人事管理や勤務管理が Tableau のダッシュボードで行えれば便利なので、人事部に対してもこの取り組みを紹介し、全社展開に向けた検討をお願いしています。他にも Tableau が適用できる領域は幅広く存在するはずで、Tableau を活用したデータ分析のカルチャーを、会社全体に浸透させていければと考えています」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

Tableau Software (Email: [japan@tableau.com](mailto:japan@tableau.com))